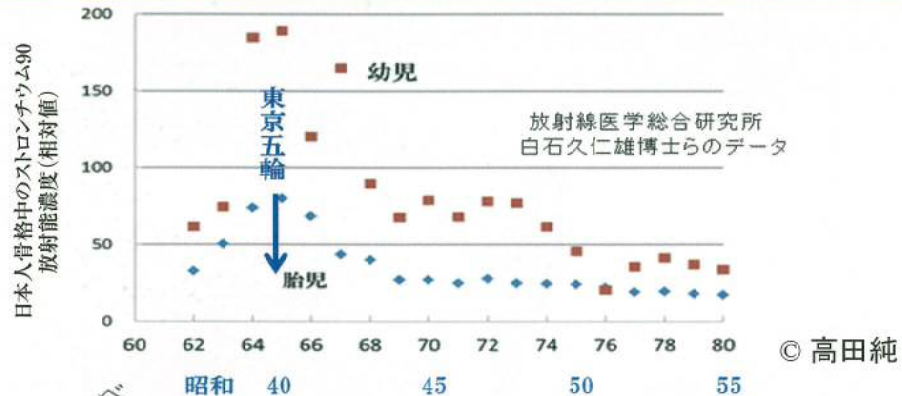




# 楼蘭周辺での核爆発 からの黄砂に含まれていた 放射性ストロンチウム 日本人の骨格に蓄積

高田 純 札幌医科大学 物理学教授

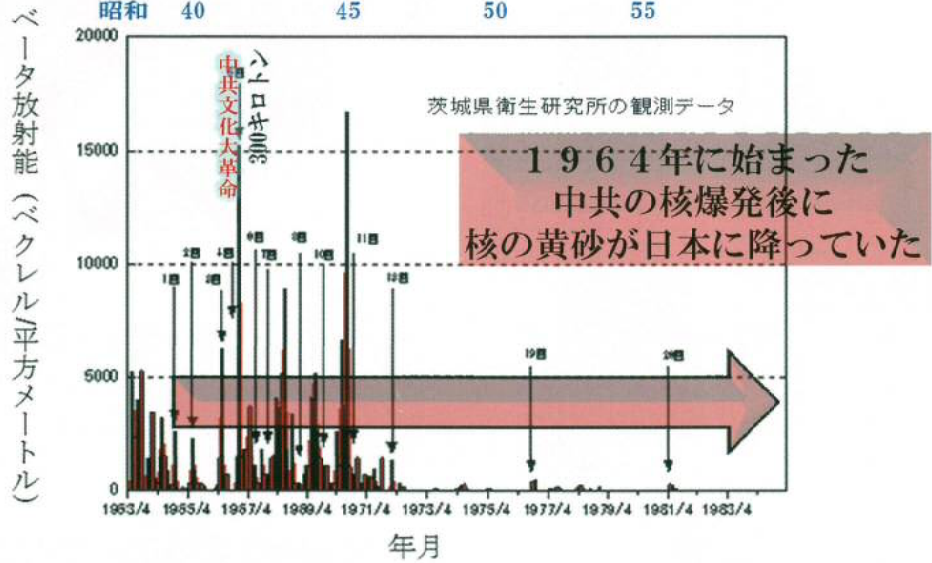
楼蘭からの核の黄砂が日本へ降り積もり  
農産物・ミルクなどを介して 食物連鎖により胎児・幼児の骨格へ  
放射性ストロンチウムが蓄積した



迷惑な日本への  
核の黄砂だが  
健康影響の心配は  
少ないレベル

線量レベル 6段階

- A 致死
- B 急性放射線障害 発がん
- C 胎児影響 発がん
- D やや安全 診断CTレベル
- E 安全
- F 全く安全



## 日本人成人の内部被曝線量 レベルD

昭和39年(1964年)10月に楼蘭遺跡周辺で始まり、平成8年まで続いた中国共産党による核爆発は、最大4メガトン威力の核弾頭の大気圏での炸裂を含む極めて危険な蛮行であった。46回総威力22メガトンの核爆発が内陸で強行され、核の砂が大量に舞い上がった。それは1000キロメートル離れたカザフスタン国境の町の胎児に奇形を発生させるほどのリスクとなった。現地では、少なくとも19万人が犠牲となったと推定されている。

米ソは1962年に大気圏核実験を停止したので、1964年以後の日本への核の黄砂の降り積もりは、中共の核爆発によるものが主たる原因である。この楼蘭からの核の黄砂に含まれていた放射性ストロンチウム(Sr-90)は、食物連鎖により日本人の骨格に蓄積した。73年、80年の成人骨資料の放射能分析値から評価された内部被曝線量は、5.3ミリシーベルト、レベルDであった。



# 日本人観光者被害調査 シルクロード科学プロジェクト



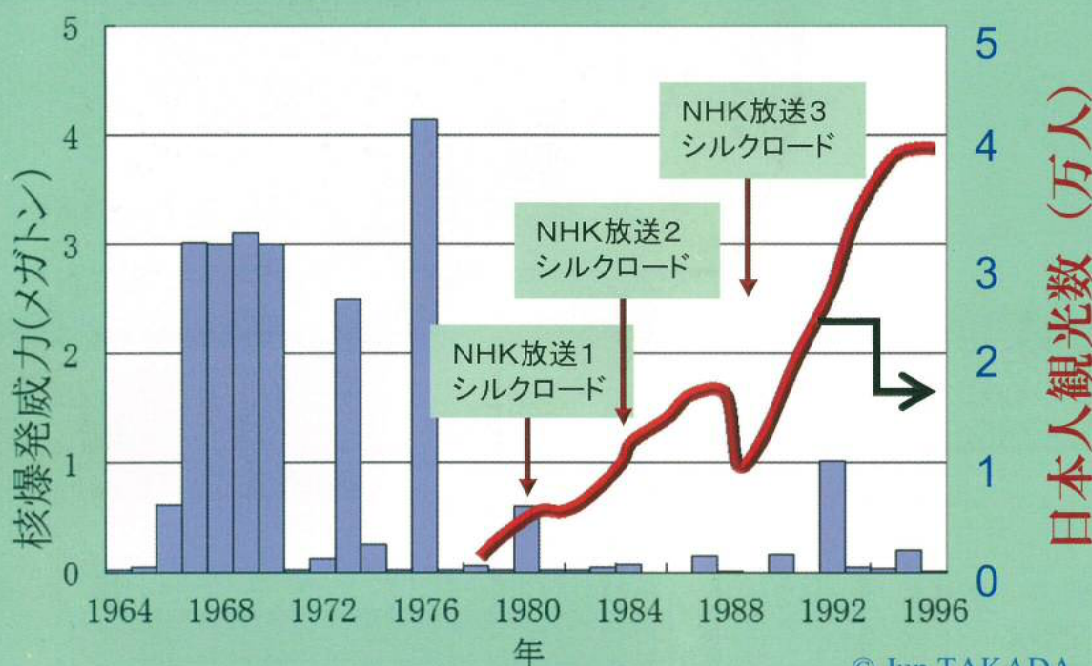
## シルクロード楼蘭周辺の観光はハイリスク

日中国交回復72年以後、観光期間中に33発9.6メガトンの核が炸裂  
 チャイナの核爆発期間中にシルクロードを観光した日本人は27万人  
 延べ推定84万人がシルクロード観光

寄せられている情報:

白血病2、肺がん2、悪性リンパ腫3、骨腫瘍1  
 その他 核爆発目撃情報 2010年時点

情報提供、お待ちしております。  
 詳しくは、インターネットで、  
 ホームページをご覧ください。



© Jun TAKADA 2009

## NHK大罪

NHKは楼蘭周辺が核実験場であることを  
 知りながら歴史浪漫のみを報道した



間寛平さんは2010年アースマラソンで  
 核爆発地帯の北端を走った。

「中国の核実験」出版の翌8月から、1980年に核爆発地帯である楼蘭遺跡を撮影したNHK取材班の健康リスク調査の研究を開始した。しかし、驚いたことに番組幹部たちが、楼蘭遺跡周辺での核実験や軍事施設の存在を当初から承知していたことが、彼ら自身の出版物の中に証拠としてあった。その核問題を、日本国民には黙して語らずと腹を決め、以来、NHKは事実を隠蔽してきた。

NHKは「日本は唯一の被爆国」と報じながら、中国の楼蘭遺跡周辺での核実験の存在を隠蔽するばかりか、その危険な地をロマン溢れる地として国内外に報道した。現地へ日本人ばかりか、世界から多数の観光者を誘導したNHKは責任を免れない。

高田 純「核の砂漠とシルクロード観光のリスク」医療科学社 2009より